

3 C区市町村包括補助 令和4年度採択事業実施経過レポート

令和7年4月
東京都

はじめに

東京都は、「2050東京戦略 ～東京 もっとよくなる～」(令和7年3月策定)において、戦略の核に据えた**3つのC (Children(子供)、Chōju(長寿)、Community(居場所))**を推進するため、区市町村による先駆的・分野横断的な事業に対して補助を実施しております。

本資料には、これまでに採択された事業の一部について、その実施状況や効果等を掲載しております。各区市町村におかれましても、**事業の検討・構築や本補助事業の活用に、ご活用いただけますと幸いです。**

子育てに全力で取り組む区市町村徹底支援プロジェクト

- ◆ 公園を活用したアウトリーチ型子育て支援事業等の推進
【武蔵野市（R4年度新規採択）】…P4
- ◆ 学校体育施設等を拠点とした「スポーツを楽しむ」子供・子育て支援事業
【日野市（R4年度新規採択）】…P5

自分らしく暮らせる“Chōju”東京プロジェクト

- ◆ デジタルでラクラク・ワクワクな未来へ！プロジェクト
【目黒区（R4年度新規採択）】…P6
- ◆ 在宅医療・介護の先進的な研究や優れた介護人財を
育成するための拠点の整備
【三鷹市（R4年度新規採択）】…P7

「みんなの居場所」創出プロジェクト

- ◆ 若者等がつくる若者の居場所応援事業
【豊島区（R4年度新規採択）】…P8
- ◆ 駄菓子屋を中心とした地域の居場所づくり
【江戸川区（R4年度新規採択）】…P9

実施内容

中央高架下公園のリニューアル

- 中央高架下公園に、子供たちが選んだ遊具等を設置するとともに、誰でも利用しやすい多世代型公園としてリニューアル

出張子育て事業

- 豊富な遊具と天候に左右されにくい立地を最大限に活用し、大型絵本の読み聞かせやおもちゃ遊び等の出張子育て事業を実施
- ➡ 令和6年度は計14回のイベントを実施

中央高架柱へのペイント事業

- 市内の専門学校と合同で、高架下の柱に小学生が絵を描くペイント事業を実施
- ➡ コンクリートに囲まれた空間を、地域に親しまれる温かみのある空間へ



出張子育て事業



ペイント事業

3か年のスケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度
中央高架下公園リニューアルⅠ期工事 子育て支援事業実施準備 (備品調達・スケジュール調整など)	中央高架下公園リニューアルⅡ期工事 子育て支援事業 10月～3月（単独開催）	中央高架下公園拡充地整備 12月～3月 子育て支援事業 4月～12月（コラボ含む） ペイント事業準備5月～ 開催11月

子供の意見を反映した取組

子供の声

- 改修工事に先立ち、市内11公園を利用中の3～12歳、216人を対象に遊具に関するアンケートを実施し子供たちのニーズの把握に努めた。
- 家の近くで子育て支援の相談ができ、相談中も子どもが安心して過ごせるようにしてほしい。
- 短時間でリラックスできる雰囲気の中、気軽に相談できる場がほしい。



取組内容

- 安全基準、維持管理の視点など全体的に考慮し、アンケートにて選ばれた遊具を採用し整備した。
- 普段使いし通いなれている公園（吉祥寺エリア）で出張相談を行った。
- これまで公園未利用だった世帯にそういう場があることを知らせるきっかけとなった。

実施の効果

【出張子育て事業の実施】

- 令和5年度は、保育イベント1回、保育コンシェルジュ1回実施した。
- 令和6年度は、保育イベント4回（参加者43人）、保育コンシェルジュ2回（参加家族10組）、出張おもちゃのぐるりん8回（36人）の、計14回実施し参加者は100人に迫る勢いを見せた。

【子育てに関する相談件数】

- 市に寄せられる吉祥寺エリアの方からの相談件数は、前年度と比較して大幅に増加している。他の出張相談等を含めた窓口での相談件数は、令和5年度202件に対し、令和6年12月末現在で令和6年度315件まで増加している。公園利用者が出張相談に訪れる場合もあり、本事業も増加の一因と考えられる。

昨年度よりプラス113件



吉祥寺エリア相談件数

実施区市町村の声

補助金の活用により、暗く冷たいイメージの高架下から、小さなお子さんから高齢者まで誰もが足を運びたくなる明るい高架下へと生まれ変わることができた。
この公園で子育て支援事業を展開することによって、市内東エリアの相談拠点を増やすことに繋がっている。公立保育園の存在を周知できる場でもあり、市外利用者に対して武蔵野市の子育てサービスを広く発信できる場にもなっている。
高架下の空間を利用した、新たな支援モデルとなったと考える。

実施内容

日野市地域文化スポーツ連携協議会の企画運営

- ・ 地元企業や大学、地域団体等を委員に迎え、令和4年10月に協議会を発足し、産官学民が連携した運営体制を構築
- ➔ 目的意識を統一し、子供が主体的にスポーツと関われる機会を創出

日野型地域クラブ活動「ひのスポ！ひのカル！」の企画運営

- ・ 市内の学校体育施設や社会体育施設を活用し、地元企業・団体が指導者となる地域クラブ活動を企画運営
- ➔ バドミントン、卓球など3年間で全15種目の地域クラブ活動を実施
- ➔ 累計430名以上の小中学生が参加

学校体育施設・社会体育施設の新予約システムの開発

- ・ 学校体育施設と社会体育施設のシステムを統合し新予約システムを開発
- ➔ 旧システムの機能性や利便性に関する課題を整理し改善
- ➔ オンライン申請機能の追加など、機能を拡充



3人制バスケットボールに参加する小中学生



新予約システム

3か年のスケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度
協議会の発足と運営、協議		
ひのスポ！キックオフ	ひのスポ！ひのカル！実施	
予約システム要件整理	新予約システム開発	新予約システム運用

子供の意見を反映した取組

子供の声

所属している部活動や習い事以外に地域で取り組んでみたいスポーツは何ですか？（R5.5全生徒アンケートにて集計、上位5種目は以下）

1. eスポーツ（25%）
2. バドミントン（23%）
3. 卓球（15%）
4. テニス（15%）
5. バスケットボール（13%）

取組内容

学校体育施設等を拠点とした、実施可能なスポーツのうち、以下の人気種目を優先して実施

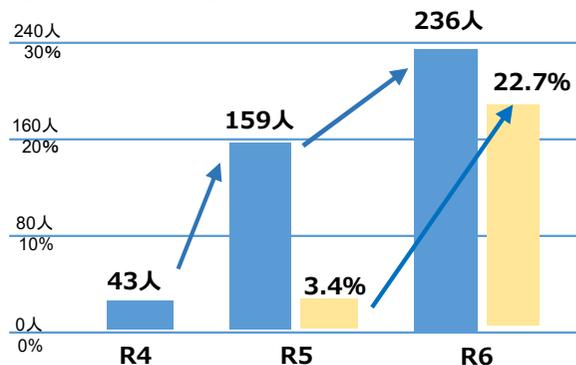
1. バドミントン
2. 卓球
3. ソフトテニス
4. 男子・女子・3人制バスケットボール

実施の効果

地域クラブ活動実施種目

令和4年度	令和5年度	令和6年度
1. 3人制バスケットボール 2. 陸上 3. 卓球 4. フットサル	1. 女子バスケットボール 2. 陸上 3. 卓球 4. 3人制バスケットボール	1. ソフトテニス 2. 3人制バスケットボール 3. ハンドボール 4. 男子バスケットボール 5. 卓球 6. バドミントン 7. アーチエリー

地域クラブ活動参加者数（人） ひのスポ！認知度（%）の推移



参加者・保護者の声

- ・ よく見てくれて指導してくれたのが嬉しかったです。
- ・ 未経験者でも楽しく参加できた。
- ・ 幅広いスポーツに親しむ機会になりました。
- ・ 地域で行うことにより違う学校との交流が増える可能性があるのが良いと思いました。

実施自治体の声

- ・ 3C補助金の活用により、協議会を発足させるとともに、地域クラブ活動を推進できた。
- ・ 小中学生がスポーツを楽しむだけでなく、新予約システムの開発によって、世代を超えた地域住民の利便性向上に寄与した事業となった。

実施内容

スマホ教室を区内各地で展開

- ・ 区民に身近な集会施設（区内各地の住区センター）を活用して全4回コースの教室を開催
- ・ スマホ未所持者へは端末の貸出も実施
- ・ 事業期間中21会場で156回開催し、1,034名が参加

予約不要のスマホ相談会を開催

- ・ 目黒区総合庁舎で開催する事で、来庁の「ついで」に気軽に相談が可能
- ・ 予約不要、マンツーマンで30分間スマホについてなんでも個別相談ができる
- ・ 事業期間中58回開催し、485名が参加

屋外でスマホ機能を体験できるイベントを実施

- ・ スマホの地図機能や検索機能を区内の公園で実際に体験
- ・ 日常生活での利用場面をイメージした活動を通じて、スマホの活用意欲を喚起
- ・ 事業期間中31回開催し、132名が参加

区内住区センターでの
スマホ教室の様子令和4年度から
令和6年度の
スケジュール

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
スマホ教室	→		
スマホ相談会	→		
体験イベント	→		

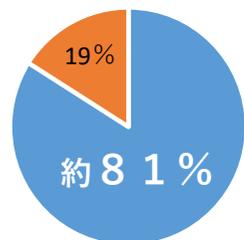
実施の効果

【日常生活でのスマホの活用頻度が増加】

- ・ スマホ教室のアンケートの結果、**日常生活でスマホを活用する機会が増えたとの回答が約81%**（目標値：70%）。

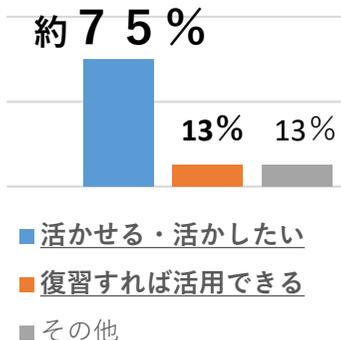
【スマホ活用範囲の日常生活での広がり】

- ・ 区内公園を活用したR6年度体験講座では**参加者の75%**が「**学びを活かせる・活かしたい**」と回答。
- ・ **満足度は目標を上回る96%**（目標値：90%）。

スマホ活用頻度
（受講3か月後に調査）

- 増えた/少し増えた
- その他

イベント参加後の意欲



実施区市町村の声

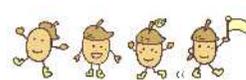
- ・ 座学と屋外イベントの連携により、学んだ知識の定着や日常生活での定着につなげることができた。
- ・ 補助金の活用により、高齢者の高いニーズに対応でき、また、3年間継続的にPDCAサイクルを回し、事業の質の向上に繋げることもできた。

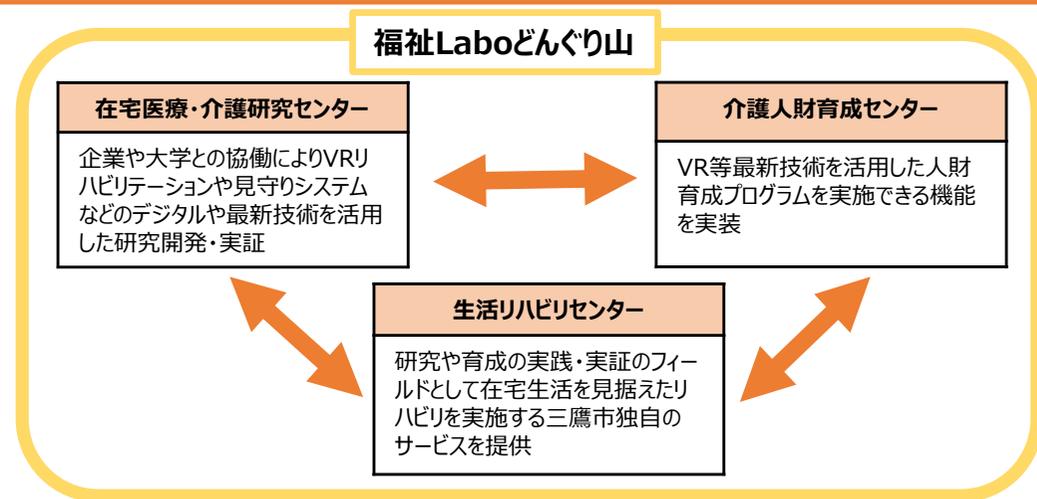
実施内容

在宅医療・介護の推進拠点「どんぐり山」の整備

- 旧特別養護老人ホームの施設を改修し、3つのセンターを設置

産学官協働の在宅医療・介護の推進拠点

令和4年度	令和5年度	令和6年度
・基盤整備 	・運営開始 (R5.12) ・オープニングイベント開催	・1周年イベント実施



実施の効果

在宅医療・介護研究センター

- 協働研究数 9件 (R6.11月末時点)
- 研究支援 1件 (R6.11月末時点)

介護人財育成センター

スキル向上を目的とした専門職向け、資格関係の勉強会や市民向け研修など様々な対象向けに研修を開催

専門職向け		資格関係		市民向け		計 (R6.11月末時点)	
回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
29	450	9	61	22	361	60	872

研究テーマ例

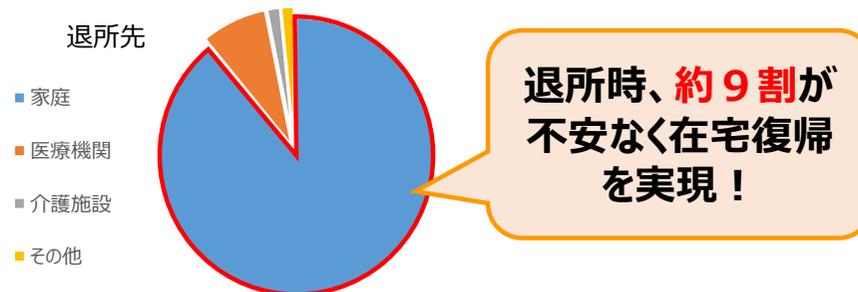
- 最先端のリハビリテーション医療機器（VRなど）の普及啓発
- 動体センサーカメラを用いた見守りシステムの開発
- 運動習慣形成アプリの検証
- 高齢期の在宅生活を支える住宅のあり方の研究 等



VRリハビリテーションの体験会

生活リハビリセンター

在宅生活や医療機関等からの在宅復帰に不安がある高齢者に対して個別の生活リハビリサービスを提供し、在宅復帰を支援



実施区市町村の声

3C補助金を活用することで、新たな事業に積極的に取り組むことができ、大変満足しています。開設から間もないですが、産学官の連携による研究プロジェクトの拡充や多様な研修を実施し、関係企業間の連携を創出しつつあるなど、成果が見え始めているところです。3C補助金を活用して整備した拠点施設を活かして、今後も高齢社会おける地域の課題解決を目指します。

実施内容

若者を応援する居場所の見える化

- 「すずらんスマイルプロジェクト」・・・10代～20代の若年女性を支援する豊島区プロジェクト
- プロジェクトのホームページにて掲示板・検索ツールを整備し、居場所マップを作成

若者が気軽に相談できる居場所を創出（3か所）

- ①若者等がつくる若者の居場所応援事業（Cleanup&Coffee Club）
区内各所の拠点にて1か月に1回ゴミ拾いをしながら交流。ワークショップも適宜開催
- ②若者のための参加型居場所事業（だちゃカフェ）
駒込のワークスペースで週2回の相談会・ワークショップ「だちゃカフェ」を開催
- ③若年女性つながりサポート（ぴこカフェ）
1か月に2回の女性専用相談、体験コーナー、生理用品を配布する「ぴこカフェ」を開催



①Cleanup&Coffee Club



②だちゃカフェ



③ぴこカフェ

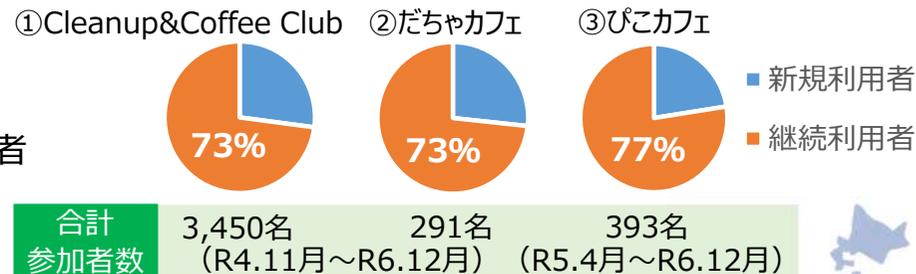
3か年のスケジュール

令和4年度	令和5年度	令和6年度
ホームページ改修		
①若者等がつくる若者の居場所応援事業運営		
②若者のための参加型居場所事業運営		
③若年女性つながりサポート運営		

実施の効果

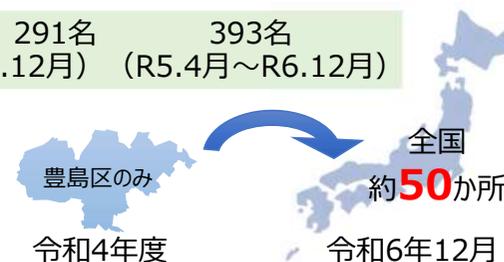
【リピート率】

令和5年度利用者数のうち継続利用者の割合がいずれも**7割**を超えていることから若者にとって居心地のよい居場所を提供できた。



【居場所拠点の拡大】

「①Cleanup&Coffee Club」に関して、令和4年度に豊島区を拠点に事業を開始したが、居場所運営のノウハウを全国各地に広め、全国約**50か所**に拠点を拡大した。（令和6年12月現在）



実施区市町村の声

コロナ禍で人と人との繋がりが希薄になった昨今において、居心地のよい居場所を創出することで、若者の孤独孤立対策に貢献することができた。

令和7年度以降においても、3年間で得た知見を生かし、区内の事業者と連携して、若者の居場所創出等を支援していく。

実施内容

駄菓子屋スペースと交流スペースの運営

- 親世代でも懐かしい「駄菓子屋」世代が楽しみながら交流
- 商店街の中に設置し、商店街等のイベントにも参加
- 居場所等の利用者自身が「運営会議」で居場所の企画提案

駄菓子屋スペースにおける就労体験

- ひきこもりの状態の方が駄菓子屋を手伝う就労体験の場
- 駄菓子屋の柔らかい雰囲気「気軽さ」「居心地のよさ」を演出

交流スペースによるコミュニケーションの創出

- 運営、相談職員や同じ境遇のひきこもり状態の方と交流・コミュニケーションを学ぶ
- 段階的にひきこもり状態の方の親子、商店街の人々の交流の場としていく
- ひきこもりの状態の方が外出するきっかけを創出



正面入口



駄菓子屋



居場所

3か年のスケジュール

R4年度	R5年度	R6年度
委託事業者選定 →	アンケート実施 →	アンケート実施 →
内装工事 →	地域祭り参加 ●	地域祭り参加 ●
居場所の運営		
駄菓子屋就労体験の運営 R5年1月30日～		

実施の効果

【駄菓子屋居場所 よりみち屋の利用人数（延べ）】

項目	R4年度	R5年度	R6年度
ひきこもり状態の方	87	1,406	—
不登校	60	501	—
その他	1,367	6,688	—
合計	1,514	8,595	6,160

※R6年度の数値は4月～12月までの合計（内訳は集計中）

R4年度とR5年度の利用人数
（ひきこもり状態の方と不登校）
月平均比較（延べ）



実施区市町村の声

・補助金を活用することで、一般財源だけでは実現できない実証的な取組を実施でき、60件以上（R5年度）の視察や報道が行われ多くの周知・啓発につながった。

・縦割り支援に陥りやすい多岐に渡る課題が、駄菓子屋を通す事により他分野と連携し支援を行えるようになった。R7年度からは相談機能を更に強化し継続的に取り組んでいく。